

平成 30 年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
たんぽぽ保育園

1、 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは、自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することのできる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の言葉で話せる子ども

2、 施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 地域との交流の充実
- 郷土文化伝承の促進
- 地域の多様なニーズに合わせた子育て支援
- 風の子農園運営
- 保育園食育指導の充実
- 職員の資質向上

3、 評価項目と取組み状況

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

自己評価項目		評価	取組み状況
1	保育内容の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくましい子を育てる」保育について話し合い、計画・実行・反省を繰り返しながら保育を進めた。 ・一人ひとりの家庭環境や発達をしっかりと捉え保育に取り組んだ。
2	地域との交流の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地区 4 つの老人クラブ・自治会長・民生児童委員を保育園に及びして交流をした。3 つの老人入所施設には、5 歳児が出かけて交流した、 ・町内の千貫石公園に夏は、散策やヤギを見たり、冬はそりすべりをしたり、温泉に入ったりした。

3	郷土文化伝承の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の昔から伝わる踊り「鬼剣舞」を保育に取り入れる 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児が9月の地区敬老会・運動会・福祉の森秋祭りで発表して、地域に貢献した。
4	地域の多様なニーズに合わせた子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の勤務状況や地域の子育て家庭のニーズに応え、様々な保育を行う。 ・町関係・専門機関との連携を密にしながら、よりよい子育て環境を提供していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育・障がい児保育・一時保育・療育教室を行った。 ・町の保健師・療育教室・子育て支援センター・前沢明峰支援学校・サポートにじとの連携を図った。
5	風の子農園運営	<ul style="list-style-type: none"> ・風の子農園の身近な自然に触れながら、働くことを喜び、育てる喜び、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の2つの畑に各年齢が野菜を育て、草取りや収穫する喜び、土を使つての泥だんごづくり、虫探しを楽しむ。自分たちで作ることで、食べる意欲につながった。
6	保育園食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「食を営む力」を育むため、保護者・地域との連携を深め、食べることや命への関心を高め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産直、農家の人との交流を通し、食べ物についての関心を高めた、文化祭では、「給食コーナー」の展示を行い、保護者、祖父母、地域の人たちに食育について啓蒙できた。
7	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に信頼される保育実践と力量を持った保育者を目指す ・外部講師による子どもの脳の発達と身体リズム運動遊びの学習をする ・保護者と共に「たくましい子像」について学びあう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の行事にお呼びして保育を見て頂くことで、保育力も向上している。 ・4園で、宮城学院大学教授「磯部裕子教授」の講義を2回受け、新保育所保育指針について学んだ。 ・保護者と共に子育てについて考える機会として、「保護者保育体験」を常に受け入れることで、職員の資質も高まった。